

カメラ・スケッチ

# 新学期の早稲田大学

早稲田大学は学生数三万七千名、教職員数千二百名、年間予算三十八億円というマンモス大学、五月一日、のびのびになっていた入学式は新生にストライキ支持を呼びかける声やハリ声などにとり囲まれた異常な雰囲気の中で行なわれました。

学費値上に端をはした早稲田紛争はまた解決をみていないのです。

一万人を超える新生生達はその渦中に入ってきたのです。競争率五倍という難関をくぐりぬけてきた教育学部の井岡君もその一人。

よろこびもつかの間、正常な授業がいつ始められるかも判らない学内のとげとげしい空気にとまどいを感じるのです。

彼のこうしたとまどいに追いうちをかけるように、わずかな間に共闘派のリーダー達が処分、そして総長が辞任してゆき、事態はめまぐるしく変ってゆきました。

5月16日やっと一部の授業が始まりました。学内にあふれる学生、宝くじなみの科目の選択、こうして彼は早速マスプロ教育の実態に直面しました。